

2013 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 ☐ 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 薬師寺中世史料の研究
3 新規・継続の別（丸をつけてください） ☐ 新規 継続
4.申請者 近世史料部門・助教・及川亘
5.所内共同研究者 中世史料部門・教授・榎原雅治 古文書古記録部門・准教授・菊地大樹 中世史料部門・助教・前川祐一郎
6.希望する研究期間 2013 年度～2014 年度 (2 年間)
7.課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 奈良市所在の法相宗大本山薬師寺の本坊所蔵の史料（文書・記録類、聖教を除く）については、1981 年より本所と奈良文化財研究所（奈文研）が共同で本格的な悉皆調査を進めてきた。調査の内容は史料一点ごとの調書作成と撮影が主なものであるが、調書作成についてはほぼ終了しつつあり、奈良文化財研究所の「薬師寺典籍文書データベース」で一部が利用できる環境にある。また、この共同調査の成果をもとに、一部の中世史料は翻刻紹介され、中世後期の研究に活用されている。 しかしながら、史料群全体を見渡した場合、中世史料は様々な箱に分散して残存し、全体としては研究に活用しにくい状況にある。そこで本研究では、それら個別分散的に存在する中世史料の全体像を把握し、中世史研究一般の研究資源として活用しやすいようにする。
8.研究の目的(400 字程度) 薬師寺本坊所蔵の前近代史料（文書・記録類）は、薬師寺宝物殿に第一函～第五九函に分けて保管されているが、そのうち中世史料は多くが若い番号の函に収納されている。これらの一部について、古く本所作成の影写本・謄写本（計 3 冊、1887 年）や京都大学作成の影写本（18 冊、1938 年）が作成され、『大日本仏教全書』などに翻刻もある。 しかし本所と奈文研の共同調査が進むにつれ、近世史料のみと考えられていた函からも新たに中世史料が発見されたり、また近年本所で修理を施した「有法差別問答集」から中世の紙背文書が発見されるなど、様々な函に分散して中世史料が残存していることが分かってきた。これらの新出史料はほとんど未紹介である。一方で、共同調査が始まってからでも 30 年以上が経過し、改めて上記二種の写本と史料原本の対照を行う必要もある。 そこで本研究では、写本に採録されている史料の原本の現状を確認し、同時に共同調査

以降の新出史料や聖教類に紛れ込んでいる文書・記録類をあわせて、薬師寺の中世の文書記録類を集成し、薬師寺の中世史料全体を展望して研究資源化することを目的とする。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

本所と奈文研による共同調査は安定して継続されてきており、調書作成は一段落を迎えつつあるが、最終的な目標と考える全点目録を作成するには、まだある程度の期間を要するものと考えられる。この機会に中世の文書・記録類に限っては、集成し全体像を示すことは、現段階での調査成果を学界・社会と共有する基盤を与えることになる。

またこれらの中世史料の研究を通じて、奈良文化財研究所とも緊密に連携して、近世史料も含む膨大な薬師寺所蔵史料全体の目録化の方向性をまとめる足がかりとしたい。

一方で、このような継続的な調査には所蔵者の理解と協力が不可欠であるが、所蔵者である薬師寺の側でも、若手の文化財担当者を新たに配置し、文献史料の収蔵方法の再検討を始めるなど、近年になって文書・記録・聖教などの文献史料への関心が高まっており、史料の保存や公開展示の方法について検討し、理解を深める機会となるだろう。

10. 研究の実施計画

2013 年度はまず初年度の活動として、これまでに作成された史料調書や写真をもとに、戦前に作成された史料編纂所・京大文学部の写本などとも照合しながら史料原本を確認し、中世史料のリストアップを行う。

併せて優先順位の高い順に翻刻原稿の筆耕を始める。

11. 研究成果の公開計画

- ・ 中世史料目録と文書の翻刻による『中世文書集成』の作成。
- ・ 史料学的研究の研究紀要等への寄稿。

12. 共同研究員にもとめる役割

共同して薬師寺所蔵の中世史料の調査研究（史料学的研究や史料翻刻）を行い、史料保存・公開・展示に関する助言を行うこと。